可矣記評判

九

へ 遠13
1701
9

1701
9

可笑記評判巻第九

第一ちゑ人ものしり人の事

ものしり人のつよい所は新田左中将義貞の作也さて
きてうの中ごろてきう老は帥のてうにまひかいたるとし
ていはしりもしき事ゆゑ世ゆゑのこゝろひい
天運は西うせくのゞまを中すく百姓乃こまを出ーこに
ようをうのきこ大こをとけうこのふりまつてくれを離
人のうゝみをくむ不ハ天これをとそのふ法人のをつこを
しむ不ハ天こをとりぐみをふをわゞ百姓のうまを人をれ
こ成ゆへ人ゞをりてこうくつしをめーゆ此をこひをそこを
わるゆ不ハ自此乃逆をとをてくわこ成張じ情わるゆ不ハ年此の
逆流をとこをわくー命をとりこゞをわゞこうの侍をい

無き道をあるく人情とうけ礼をいつく貴銘をも七無用の
引隠し紫氏不礼かして強悩のこゝろ深きうん上ぺう
とてハ愚痴のいふわるなり又無貴をいへる人まじ善代
新参ハよろしく手ずから忠功なすとも怪しハ書よつまく
舊悪をいひ出して新しき忠功とりすまゆハ祥なくぶる
人といへりいはんや舊悪ありとしても忠功ある人ありまま
をひきいつてぞ無貴といへる人ぞなん又善代忠功の人
ありとも新参忠功の人をそこなふ科にてすまやうふ
善悪とせんとして死罪流刑もぞし又無藝無能の侍
ありとも吟味なくしてぞ吟味あるまじきわけなくぶるり
よて貴銘もつしいはんや藝能あるべく又半分わずし
あるハ愚なる鉄杖するべしいへる筋藝の能といふぎの

らずを中ふりあらでこそ人徳の善なうるん君なりあく人十人ならく
くそもの無手數てしおよりふ貴銘ちくてすぞもく
主として孝義ありそとして無儀ありまして快気
ありまとして情深ありて婦として順義あり右ひと深
とおこの人とぞありふも祝しかる第しべくずの中あ
りく気を悪ハうなりすこ人罪とありんまくそうひ匠
されぞ善代相續の侍よをのくつ家こ家の料あり
ともつとく人の祖日比の忠功わくしぞせひ出しそその料と
ゆるさすぞ古人むつく今の料をいふしかれぞあらくなりれ
忠功とわらてすなれと祖善代新参のつぞそれく
ちくその料とぞゆるすぞこまこ人會也ある折る罪料
そハ善代新参も不相口のつくそれく死罪流刑す

[illegible]

評曰[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

甚無乃みハ兎の毛ほども行やまずその張ほど
いのすな
侍といふ者ハ質あり侍に三品あり義士と勇士と
謀士となり義士といふハ明ハ國中みな勇者なる
此時ハ国をたもつハ謀士なり又は國をうしなふ人かり又は
義をまもらずして其の勇なきもの謀をまもらず
いかでか身を全くせんや三士なり此時ハ従をかみに敵を
三士なくして時ハ国家を失味方也されバあふ時ハ必定を
もって能く知る事あり時ハ根をすてゝ先を兵とす
古人今ならず一言の情を命とすて一言の恨を
忘るゝ事なすハ勇士謀士乃なり也今の世の義士ハをく
すこし貪欲をすれ共よき時ハおのが侍乃道を忘るゝ人

ハ礼にかなハず情なくかへって
不義無礼にして恨を負事あつかふ事しらずして項
羽ハ武勇の人なりしかども智慮なきゆへ韓信をおさへ
置く無礼をいましむ沛公ハ寛仁にして士卒を礼厚
くつかひ為に其功をなしけるなり又項羽が部下ハ陳九齢
ら絶ハさしも智謀武勇あれども堤原を知らしめ
范増を礼なくしてつかふ事ゆへ讒邪をもちいるなり寺
也まし仲ハ一隠士にてありしが張良に兵書をさづけ
かへし無礼にして引ぬるを所りうしかバ大功の成就を
思ひおく事なく兵術を挫きの道を得つる
諸葛ありて我此人ぞと沛公なりて又十人にかなふて
もろこしの事なりしが人々ハよく其の智ならず

かゝるずく人と知らぬ中にもありて諫言ゆるすもの
鉄拳めぐらりの勇者勝名されてものも見るけて
そのぬすまてふつつ分しその器量才ゆるぎ
めでつかふとき八銀を求めつゝ金犬をあるのがせさん
ごとし是等は物見使番抔して物ぐしらるゝハ是此
器量をもつて一芸の物を見立てそれ〳〵役にはつべし
今の人へしてつくしも役をはやしむるを家来とせば
此方にも修の人柄ハ百余の棚の如く小鍛冶あり
ひすらき利潤をせざらしめ町人商人のやうな機ゆく也
とち花の人々中されし
先祖の忠功ある人々と新をゆるさすとも中々年人
よるせきそこそ氏をも分中とおかるの方此身ぞうする也

ところで世中あれそこらぞのかみ悪金の執権。有為
大ま丈夫時の近臣深見三郎として是ら八浪人
文武三郎と器量の射手にて夫婦の領知。奉行代官と迄
きはめ勤役をさせるによりて禄貴もそのみあり
やんさくとわざ名ごみえて家体家人まで富みしまき
りへてき家つかまつりまするも下女七八人づゝはりせく
それ女の不縁乃えるハ金銀ととも也京悪金此浮家
えうら迫りしみ此宿にして傾城をもよびむかへの日ごとに
ありし川市地をかるのおの方人わつちまハ常に田楽遊
女申楽遁世などとなりて奔走也とくそそもも
でもそぞりとさかあかつりそれのこおすず百銭とさま
陣時乃課役そうきてむさぶり惜はをれかひきりさ

家おほく讒奸（ざんかん）を喜（よろこ）びしかバ義時（よしとき）をうけて又お
命をも殺さむとハ大将人（?）に申されしが年を経
てのち横しま意状（いぢやう）にして親王の左右に執権（しつけん）の命を
あたへし不忠（ふちう）をかうむりて近所（きんじよ）にせまりしが執権鎌倉（かまくら）
に入りて［illegible］年頃の忠義時（よしとき）をさしおかれ
家まで［illegible］旦那（だんな）の詞（ことば）を入れ静（じやう）宗その年七十才にあたり
けるが只一人まで命をもばおりかへして二刀さし
てむかへしが義時（よしとき）ハ其夜の明（あけ）を待（まち）かねてきた
りたるや又不義（ふぎ）をかさねてゆるし配所（はいしよ）へぞつかはされ
近所（きんじよ）にありけれバ其の後悪（あく）事（ごと）をかさねて人の悪（あく）
といはれし織田狼（おほかみ）の子孫やがて壊（くわい）されて来る
ほどの［illegible］ゆるされ拝（はい）をゆるさんもの後ゆる

すゝめられしといふ事世によく人のしる所なり

第二　秦（しん）の宰相李斯（りし）が事

むかし秦（しん）の李斯（りし）といふ人利口にして才覚（さいかく）ありしが
若き時家まづしく小役人（やくにん）の家に奉公してありしが
ある時雪隠（せつちん）へ行て其所の鼠（ねずみ）を見るに糞（ふん）をくらふを見る
にもかれこれひとしからず又是よりて後又蔵（くら）へ用ありて
入りしが又鼠（ねずみ）ありて粟米（ぞくこめ）をくらひてゐたるを見て
ひとしくあらず別してかのものの鼠（ねずみ）の人倉（さう）の蔵（くら）へ入りて
食物（しよくもつ）までもよしあしわかち人（ひと）もをそれずよりて依（よ）りて
おのれが今まで見し下賤（げせん）のものとくらべてやすくおもひ
秦（しん）の国へまゐりし始皇帝（しくわうてい）をたのみてやがて丞相（しやう）
としてたのもしきの事をなさしめられ候

[illegible]

詩曰[illegible]

[illegible]

海内これ楚の[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

王秦の国つよくなりて、ちかきとなり今をたてそれ
六国をみなほろぼし秦の世となして申すにいたりて之
ありけるにこれまでの天子にかはりて天下を治めし
始皇にいたりて猶もあしくして、まさに天下此ちうを
とほりつく六国を合せられたりけれども
ころすに始皇のおひたち李斯とくみて客卿として
まいて趙高の宦人なりし者にあづけられて李斯を
従へつゝ諂と侫と旋風の様をはらひすゞ
としも問答はつまびらかに黄金一万斤を
積まつられより諸国をひろめさせけり
合せてをんなを始皇とあらため一万銭此金
とゆへつゝまよこ後はなつて天下よそのある

わざのつくりのものを殺あらく民をくるしめて悪逆なる人
夷ありけりまず王翦と云名をとめしよせ
てより六国をせめほろぼし天下一統して秦の
世となしたりけれどもその心ざしよこしまなりて
民をむさぼりけるゆへにほどなく天命つきて趙高が
ためにほろぼされにき
利口の利口の人聖賢のまつりごとをも非する也
よろづのことに口をきゝてしかも其の中に女の時に
周の文王の民の西伯たり呂后の后にして悪
まいよくまざとらず名君の時にいたりて呉房
とゝみ暗君の時に奸邪あつまりとなりこともあ
て之をそこの好きまゝにゝつく善人も悪人も

[illegible]
第三過ハあるべからず
むかしうつくしきこのやまりこのみすをハ
あるゆるさまくなるくたすとつしみ行られて
あるあるすもさわぐおのれ夫のくが敵でゆうええ
つくて後ハ[illegible]
後さんとさわぐ[illegible]
[illegible]
あるくもりにくわるくるやや
評曰ゆやそちをあるくもむるくるくるれ
とくてハ乱ゑ人のくに集り敵ハたくず世代
[illegible]

半ばあるくんやそれすうのあるはすよあるくもわ
わざわひとあるくぶたくてくハりくやた
あるさわずくやうみてあるくぶ今やるくぶ。せつで
いなるくぬくあるざくぶるもひ夏兎ちくん
うえさやうよいみくおのるくちるのぶ歩さぬ
あるにちすふあるりてぶくやちくもくくさあるりば
よく集つのくりつるわるあるわぶ人半をばおみ
てもはしみくぐむまで寝ざるのくやすさそれの
伝あるり。ちやでさ半をちくはハさざるひよあるぬ
まぐも奥遠よおのくさあるくくちくて寝てハ
美さくくくぬぐくくぬぐ世のる人名[illegible]
くぐくてつしまぶつるりてハたあるるさざるひさあるる

物ぞ海ハ苔乃事よりいでゝ山ハ茎漬乃つけもの
迄かへり程をよくしめしたる也

〽第四　物ゞ所に似合ぬ寄りの事

むかし唐国に頭抹といふ者ありけり偏あり此もの使ふ寺
きゝてわかき剣よりそれより又鶏乃卵を好み
てかゝる食なりわる人此方あハそりしを食て
るほどさまにも出家に似合ぬすがたにてみれば偏
ここにつゝく銭にいれる乃もやきが面白しかまへば
又ゆりて金あるちかそれハいづとい又りされて杉飯の
かよくしてもやきものがたりてハ見るもかくなりて
まことに十字は体なくなりと見かくも食すればあへぞ
元法の事とみてまことに年也

評曰　唐国乃頭抹より頭抹禅師乃寺に欲ありとも
そのわけをきゝわしくみると卵との問答ありし
はなはだ一文不通の中よりもそれを頭抹といふ
よみつゝき偏ありと書れしより此すぢつられし
蝦子和尚乃蝦をつり猪頭禅師の猪をくらひける
鳥のひなが卵を食にきめてぞ云き法門あり七日
わかりしところ也とや寡倆きゝぞかきたる人也
ありかたし

〽第六　世乃書ての事

世のしきる人乃そのいのちしく知恵全比しめしみるにて知む中
中々行すれの務のつきて中をもすべし又さりなく
造作をもちいして師匠をとりつく物をも知らざる事也

年ごろ假機をつくりあぐる迷陽をたちたる年みかみを
ちくはりしえてこて陰。後ちろる年ものしすて蓋くなる
ものすると年又金張きくさんまちるぐ陽ちつ
ちぐてくすくすゆのちよ知りちちをちち勢
ぐぐ迷陽ちちやうはめつつ年みちれ人ちゆ一
乃費ありちくくんはぬち年えちやうよ別を
ちる年山かんはつ

評曰ちき乞乃勢よ行て中をちぐ人年みぐち
ぬまぐりるして乞ゆ人のちりわり地ぐてゆ人ぬ
まぐりるぬ日も有ちちぐぐちーみちすやちれ
ど不義と孔と孔ちなよ行ゆく中ゆく
るる也乞ゆハ義ゆ国のり孔をぐぐ和をちて

ゆぐりるゆつよちぐちちちちきゆちや
湯書に勢交乃ちの迫づく勢つちてちちて立ぐ
財交乃ちちハ家ちりり財つちてちちぐて財しく
交のちちの新ちく父ちちちちちくちちぐく義ち
ちりてちちゆ小人のわざゆして乞ゆぬちぐりふ
りふぐちわぐ欲ちりちて中をゆぐハ財をゆつく
ちぐりふ新ちりぐゆぐく中段ちふ乃見也面女
ちてちりちちくく交りちの世ちゆりちわりく
ゆぐぬりちちき年ゆきぐ海不国をちち
つちちゆすせ人ちちて中をちつく交りちちを
ちすゆのぐゆちくちちちちずち新ちて月ちち
ぬぬすゆぐくちをちちぐちちを義乞孔陽ちぬ

ゑうの人なハ世ハ世わけ也
根気とつゝおぐ〳〵述懐をゑうくゝ
〳〵述懐せゝゐゝゐゝゐゝ
ゝゝゐゝ述懐してゝゝゐゝ
てゐゝ宰人ゝゐゝゐゝ
ゐゝ命ゝゐゝゐゝ
ゐゝゐゝ述懐せゝゐゝ
せくゝゐゝゐゝ
いゝゐゝゐゝ
をせゝゐゝ
述懐ゝゐゝ
ゐゝ述懐せゝゐゝ

命ゝ利欲ゐゝ後悔ゝゐゝ
ゐゝゐゝ人ゝゐゝゐゝ
ゐゝゐゝ日今ゝゐゝ
ゐゝ亂ゐゝゐゝ
餌ゐゝゐゝ
ゐゝゐゝ
合ゐゝゐゝ
も利欲ゐゝ
ゐゝ利ゐゝ
みてゐゝ
ゐゝゐゝ
ゐゝゐゝ
ゐゝゐゝ

はしむづ

評曰欲乃果報といひて衣類なり財
欲うるわるる欲あり衣類飲食の
のもむる者の財ぐはまでみるこのもとよりあふ
財欲あるもいろ〳〵ざる欲も有財ぐよわもで初て
そわるは他乃毒毒をもつめむるあり海うよりう
もるを罷人あり地ゐるこ理ようほ理ようもるぐはすを
みるはしもむるよりめわで帆義をつしむ帆義
あるもいろ〳〵人欲ようぐへで帆をの
ゆるあひあり山ゐるは禍うあず利ようるるく巻ひ
こもころ理ようむくの罪也貪わまでゆをゆる退
ているぐ〳〵欲わまるんゆるぐまるるぐ

山ゐるに不義と帆をと和奪とるれ智恵の別
あるぐり屋の禍とるつるぐ財貪は月ゐ〳〵とゐ
也をるゐるは人は色〳〵初めて悔むとつぐ〳〵
るわで云るとるもゐ代きるつるずこ也ます
ゐるをわりる財をるつるわ〳〵でるわとるに
命ゆ百年をるつやるゐ屋のるまへく禍ようずれ人也
つ屋あるすゐ縁乃拉て千年也くく
るあるにゆるるいるの也ゐ縁の
ゐる縁るで不義利欲也禍るるまて欲ゐるるぐす
半はいるるぐ屋るるくるるむ也利欲乃奥ぐ
ゆ人禍あるるいこ也わるへるず

弟子七墨兒(いゑ)とせがこころへ以くぎしと知つきまし
むかしさうへおうさし對(たい)していまれとはのさまみ方
いふとしてら細(さい)く宰人(らうにん)とありわきさつまつつや
きとひ幾人(いくたり)乃まほえてひ仕へてりても織女が院を
せらゆまじ又知り金銀てめさとさらなまじ也あるむ
後の主意ひとりもそのとまらなみ人ほとめくなまいわ人
え人ふものは江もらえまんくみ御とーしわざて留ま
かるやとつりこそてくいふく先(まづ)まつくとらくその
い美兒(いゑん)きつーまれとらまりめかり綿繡(めんしう)てる黄石(くわうせき)
陽子(ぐ)とぐまゆとらさ知のつ中ともいやとらくめといり
みつく法ものく百きよ住へらく法もいくきさまつへ
すと云すありやとてふいやとらぐずとふ又伊尹(いゐん)あらび

苦楽(うらく)よつへあそらび湯王(たうわう)にわつ七年はなお知らやとや
えれをかきし世とのつり又石里奚(ひやくりけい)が國裏やなしびの
なみとみふいやさは経りずとてゆきさ也
許由これは宰人(らうにん)ハげてろ者代よめづらしき聖賢(せいけん)が
てぐりとゆかるとびつり伊尹(いゐん)百里奚(ひやくりけい)人にあざらつく
殷湯(いんたう)夫出穂(ちんぞく)のじくれがまきなきせをと致りるさ
やかうん小飛錦繡(せうひめんぞう)の綿のくほらまとげまら経
おくぞよく兄と思ひてらぐまうべき年るのほや
細(さい)く宰人(らうにん)とありわきさのま法とりてとば海らん
とすまでも桃(ゆう)きりまわりてぐ路ぐまさぐ如くそ
如かつりきされ又つくほまつく百きよび
宰人(らうにん)しては後まとぐきりさら人ハ新ぞやつきまさなき

をいてすくなき千年を經ざれど百年をたもつ事すくなし
されどもちくせんにかくるまつりもやもめがたく
伊尹がもちひし草薬をつゝしみ塩湯をつゝしみせハ
呂氏がいはく此聖人みのりの道をまもりつとめてよ
事もみえず百里実をたくはへてさいはひの時はさだ
哉此聖人の孫子悪事の禅もみへず呂氏
とせしへハ文道の人ありきと唐のすゑにて
云ふあしきわざして呉児をまもりつゝしむべし
文章の姫謡をかたる

第八下臈の分限の娘ういくこそてはやりける
ひとりの人のよろしからぬ事を何として智恵あ
るにもさきの甲斐なくいそんや名人の身をかくし

よくすべき事好きに不知足とまつりたる栄花をつ
くり飲食にめでたく欲とするに女色を好すく
事不知足とは金銀珠玉をほしがりてすくなきを
えんとし善悪の衣類家具をもとめすまして作と
の諸道具をもとめつくしてゆたかなる事
食とは酒もり菓子めんるい美物の飲食に不
足なく料理ぶりをかざるもよろしく時々は
欲より起る禍は不知足よりおこる所ならず
君ひとつの事ならずおのれ一つの欲をいふ
すわざりとは君ひとりとは我ら思ふ
くるしみ人の事佛経をよくうけてうけたまはる
生死を離脱せんとおもふ者は欲をも　して食をまつ

せんとすれどもかなはず利分をもとめて淫婦をそ
めうせんとすれどもつひにさはりなく稼ぎ
出家のいとなみの業をもとりすてて方の衣
をもとりあつめ是をもとめ出家のみ所のもとめ
遍度をもとめて世をふる事はつきもせず
やしものをとりもちわたる傍の人のつかひをれも
代清浄の初夜の中一まで渇釋の法をもとめよ
うとあるをもとめられもとめられもとめられもとめ
る武者家のゐ縁なりなりのみも碁ばうつ法はたの
ゐ中き脇ものもとめ代あるをいでるを
もとめ儀ちんをもとめ代をもとめ
ものすきわざ事世世代の法をもとめ百姓

町人ばかゐ縁方のすぎをもとめてうちを
まで世をもとめ代に淫をもとめ日蓮ふ一向宗の法をも
とめ世をもとめれば法をいつまでもとめすき法律をも
とめる武者家のゐ縁和歌をもとめくすきを和ひ
ん人をもとめる武者家の女軍はもとめてもとめ
とめ和歌をもとめ人をもとめ代をもとめ
く若人は海ばかりをもとめ絶倫書源和歌文章
をもとめ代をもとめ代をもとめ代をもとめ
をもとめ代をもとめ代をもとめ代をもとめ
をもとめ代をもとめ代をもとめ代をもとめ
をもとめ代をもとめ代をもとめ代をもとめ
をもとめ代をもとめ代をもとめ代をもとめ
をもとめ代をもとめ代をもとめ代をもとめ
をもとめ代をもとめ代をもとめ代をもとめ
をもとめ代をもとめ代をもとめ代をもとめ
をもとめ代をもとめ代をもとめ代をもとめ
をもとめ代をもとめ代をもとめ代をもとめ
をもとめ代をもとめ代をもとめ代をもとめ
をもとめ代をもとめ代をもとめ代をもとめ
をもとめ代をもとめ代をもとめ代をもとめ
をもとめ代をもとめ代をもとめ代をもとめ
をもとめ代をもとめ代をもとめ代をもとめ

のつすハ八九つまてなり但しそれも在家のうち愚癡の人
をこそいへ百姓町人なりとも此愚痴の者にはあるべし
涅槃経にいはく我滅して後飢のおそれある時の教
受戒の者ありて此むねを説事あらんと是をさとし
許可なきものは門名戒律をかへてはなれに名を随ひよく智
重きく学せく而くも名聞利養にかはりてまさる法をそへて
栄花をおくり貪欲なる癡にして大家慈悲の名をいひ
あきなひのかざりに佛説の未来記なり何ぞ今の
ようくこれ凡いやしき妻子をもうけ人児の髭り
をりやん欲にかゝりて無戒無慚の僧侶ともに世俗
これをふかく十佛在世の舎利弗目連にも
かはらんとて八宗見代ともに人をとをきあつかひ今のかはり

またかく経はかのかならずあきゝまにそのすさよりて髪を剃
袈裟をかけて形ちは伝をかくすの也なれば身の
らずとふとも此の心ばせはのずくの僧の在家
とをしらんことぞ泥の中より蓮花の生ずる如
くしをなりて泥にそみぬなりとてよく流る
そりてその人をいふなればこそ僧と申のを
かきうらをとて正法を知るあらんやそれ破戒なる
僧は師にも学道智恵慈悲のうすき人の身なれバ末代のまた在家に
をも智者も学もなくして尤も破戒なるものは
てまかせの僧師といふ僧に劣るずらくる
売僧とよぶものにて其の法に非ずして今いふ
此身ハさまよひこれを僧といふ書よ

あるもしきそ〜わろハ佛祝とをとをゆゑなり
一代さつふ教。一百法門部の聖教方便とをつ実と
為揚わりみその人はをりてをを〜のもひとりぶ
をわ〜く指廣をとゞ〜をいはをひとつをり例せばの
孔子の門弟ぞ孔子の門弟ぞ孔子の門弟ぞ孔子の門弟ぞ
てわをいいあがふをとをれとをを〜わをいはをのかと
はををとをを〜をを〜ぐをしわをに者のをとをを
をを〜をを〜に摺嚴のをみを嬰をを〜ずして生
死と為服をんと強ををいを孫どもして飯とををんと
ををあぐを〜をとをを〜をを上機のをを〜をあり
をを代下機のをもを〜をは破戒を無も仏教をを
をを〜をすをを〜をををを〜ををををあり

をを〜ふ一概をを〜をを〜ぐをを代と書世を上根と下機とを
をのをの相違と不相違と〜〜すいををのををを
人此師とををる中ををのををを〜をを
ををを〜をのををいをみをを孔武代を孫をををを
こを在佛修をを〜をを〜き人の舎衛城を片服をを
修をを〜をを〜をを〜をを〜をを〜をを〜をを〜をを〜
補くをををををを〜をを〜をを〜をを〜をを〜をを〜
城こを在中ををををを〜をを〜をを〜をを〜をを〜
ををを〜をを〜をを〜をを〜をを〜をを〜をを〜
四の八成達城こを百城農人牛を刑ををを
こをを四城ををを城をを城をを城をを城をを城
をを〜をを〜をを〜をを〜をを〜をを〜をを〜

仏在世よりして和歌をよみ給ひし事きこえもなし
又弟子経文わたりしより以ての後はあまたの和歌の
あるにやいかゞあらんや
況や其後空海と申せしは此国にて平世の人
の作りなれば人々ても信とも見なして書うる
也り基は妙なる意中にして和泉国大鳥郡の人
その先祖は百済国の王仁也空海はこれ妙なる佐
伯氏の縁故の氏の郡の人々にて又は阿刀
母は阿刀氏の女也母はこの関の大江の佐伯の下阿
刀の兄をして儒宦の名をありしてなり
しき人のよりとうらなめ申さん
況や其家来の家の弟子和歌をよみ申さんとせ

三国度者の由来は法華経にも仏の御事の
あらはすなりの記はよりも恩をも先の子の
とりくすりしてとそしくひいくてもあれば
くの仏法は上ちの中をたもちすらう宗旨り
とひろまりしもうけぞあをよく戒律とよう
て元来此道を修するこゝに真乃弘法大師の
仏在世のときもあはれと菩薩との二儒ありて法
菩薩も釈迦をも数すやまれおのづから殊菩薩大士
儒の心をとおもてのひそり律を左右にかられ
在俗ありとわざもへは両ともの事ありとてこれを
在家の菩薩となづけまする濁世の世にあれ
まづかれ此ものゝはまつしみ月次なる仏の読出弟子

飛鳥員連乃とをとこ水主乃宿禰吉備比
左とのつぐらとを地より髮鬚ゆらして法師乃す
がたとなりて出る阿羅漢乃仏けをつくへるかは
らにしてその弟子なる人を實刀にてつくるとも
そを戒をうけしめのひとりとなりて水主乃宿禰
のとをとこ十年ばかりを懲るしめ給へとて
こを後新羅の精舎の東西に壇をこしらへ初め
乃人びとなるのがりて髮をそりて戒をうけ
唐よりして陰陽乃師帝のみよ白馬寺にて
帝の御ばかりに司空劉暾なる初象をゆるしたり
こを後西家の元興寺に十二年より元興寺
南樹寺より戒壇をこしらへ初め

ぬこをに唐乃秦家の帝の時日ぐら安福山より
思ひぐもりなんの年より國内にまことをわぐ
至德年中より禁中へ官仕度樣をとりて初象を
ゆるさぬ人をつくりて百貴文をとりて商ひする
ものの後もくに初象をまねるものをうけまづ
ハ初象をかくるのみにていくらぬくはすゆみ
ヨクリ又日本にある鑑明元年の浮屠より美濃那
九初象をゆるされ年ごとに此那郡に和尚日本にきたりて唐
よりて初象をゆるしてこれ東方にて戒壇を
よる國よハ觀音寺に國ハ筑紫に戒壇をこそ
て初象の人びとをとりこをあてゆるさぬ

こゝ後延暦年中に彦根の神除とゝぶ山伏年中に
て偽敵の師ひえい山より飛ぶん張ふてゝ
所年ゝ日の内よりゝ飛そん三不よゝてふ
紫乃獻をもいハ西国の人ゝ物ゝ所ゝ不ありゝ地
此業師もいハ西国乃人ゝ物ゝ所ゝ飛ゝ不ありひえんのゝ
中ゝの人物ゝ所ゝ飛ゝ業師ゝもいろ乃ゝ人ゝ物ゝ所ゝ
ゝゝく後ゝ業師ゝもいろ乃ゝ人ゝ物ゝ所ゝ飛ゝ
ゝゝ不ゝ毎年物ゝ所ゝ飛ゝ業師ゝもいろ乃ゝ幾人ゝ
中ゝ物ゝ所ゝ飛ゝ業師ゝもいろ乃ゝ人ゝ物ゝ所ゝ
物ゝ所ゝ飛ゝ業師ゝもいろ乃ゝ人ゝ物ゝ所ゝ
ゝゝ乃ゝ飛ゝ業師ゝもいろ乃ゝ人ゝ物ゝ所ゝ

ゝゝ乃ゝ飛ゝ業師ゝもいろ乃ゝ人ゝ物ゝ所ゝ
ゝゝ飛ゝ業師ゝもいろ乃ゝ人ゝ物ゝ所ゝ
ゝゝ飛ゝ業師ゝもいろ乃ゝ人ゝ物ゝ所ゝ
ゝゝ飛ゝ業師ゝもいろ乃ゝ人ゝ物ゝ所ゝ
ゝゝ飛ゝ業師ゝもいろ乃ゝ人ゝ物ゝ所ゝ
ゝゝ飛ゝ業師ゝもいろ乃ゝ人ゝ物ゝ所ゝ
ゝゝ飛ゝ業師ゝもいろ乃ゝ人ゝ物ゝ所ゝ
ゝゝ飛ゝ業師ゝもいろ乃ゝ人ゝ物ゝ所ゝ
ゝゝ飛ゝ業師ゝもいろ乃ゝ人ゝ物ゝ所ゝ
ゝゝ飛ゝ業師ゝもいろ乃ゝ人ゝ物ゝ所ゝ
ゝゝ飛ゝ業師ゝもいろ乃ゝ人ゝ物ゝ所ゝ
ゝゝ飛ゝ業師ゝもいろ乃ゝ人ゝ物ゝ所ゝ

下根の人のために方便の教門を設けて、
方便ばかりをもつぱら修し、
その他の諸行をば、
一向に不修とす。
戒律を破しては、
地獄に堕ちて、
ひとへに苦を受くべし。
次に混乱邪命の人、
ただ自ら方便を修して、
他の人の教を破す。
次に正法の中の邪見とは、
ただ方便を修して、
正法を破す。
次に戒の中の邪見とは、
ただ方便を修して、
戒を破す。

これらをば、
施物とこれを受くる人とを、
ともに無益なりとして、
施物を与へず、
また受くる人をも、
ひとへに貪欲のものとして

伯耆粒子丸ゆうしゅう人のすぐれ侍りてゆ
しうしう文ゆうわざこと生ぜうぶりと呂牲り四表とあるを
きわざ大内山の月影も漏るあるものとうりみぢち
うてゆうくまぐまきわ山乃君ゆうと云ものよりうり
不ふ二房と戒師ゆうしとして初ゆうしのゆう帝ゆうしとゆうし
ゆうぐうきうえ花ゆうの納を宮房ゆうとは使ゆうしてゆうぐ
納ゆうせのゆうゆうちゆうぐんゆうゆうのものゆうゆうぐゆうゆうく
ゆうのゆうゆうはゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆう
敵とゆうりゆうてゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆう
ぐん弟ゆうつゆうせゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆう
ていゆうくゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆう
いゆうゆうゆう師ゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆう

とゆうゆうゆうゆうに入てゆうゆうのものゆうゆうゆうゆうゆう
ゆうゆうは三ゆうゆう

位ゆうゆう山ゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆう
ゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆう
ゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆう
ゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆう

弟子寺に入ゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆう
ゆうゆうゆう師ゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆう
ゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆう
ゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆう
ゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆう

多く物がたりてくるる人
第十五　逐猟師を利欲人
山てうろ人ゆくこころ
玉の芳物のもく然乃ちゆ
ちゑ也とも山芳と射こうろ
うかくくもの山ゆいかがあるやらん
ゆりえやうずまつその
欲乃中よりみてハうもつ
芳也逐芳和礼をこうろ
しまめる物ゆ山ぐ
するあるてめるへまく
この沖をゆうしとうろ

河内ゆうなる山ゆうてうろ人のあるあ
ゆうわず大臈ものうゆと作ぐわ山めるへうろ
てうんうろまぐ乃月よい呂掘つうり思えて人乃
あるあぐ芳あるも見つもやうずとうろやゆるう
評曰芳を逐猟師い山所を沖とめるむものい人
とうずとうろ古鏡海ちゆ利欲ちゆ乃ゆ
て渦ゆうるうゆうくむうるうれ利とむゆ
るく私欲とうるへ財ゆ海ぐのく蛇をとうるうん
ひうるわうるわうるうの芳呂一人ちゆぐあを
玉ちり地ちり鬼神ちり秘ちわり落てや人乃
中ゆうくいうるゆ中ゆあいハ孔乃芳ざゆとうゆ利
それゆうの芳一人智芳ちゆうく他人ゆうるゆず

わがこの業と人いふをえんじと思ふ事大なり
海ぞくのはかりごとやとうたがひて人のつぎ
て頭をわく律師也さわぐ海ぞく
なぐも遠じとせしほどに
ふるまひつつりとうたせうしていまし
至人こまかあそわこつつりとせう勢じがるふ
天地人乃勢よ合せく天と神と權と縁と
こうらくもきぬ人うてうぞへこ海のある物を
神うてとうなりきぬ權みくうをもまぬを
ぶんぬりよあて義けとうて廣恵ほうを
らるわでみ天神 神よつつりとうを人へ仏業と思つ
て仏業とつうぶらく今の世いかりてうと仏ぞり

よいとほむこうりていよ
つるふ〳〵〳〵〳〵和歌姫をたてるゆつは天地
神明もつさうあれ方に守護神あるがまて
ものあるう禍よりう神あるき妻みさで四の
海をぶるつるうさうする半よりうる物乃媚て
神をよく媚て人ほそぶろうとてでもうすふ
畜生まわでやこそうつるうさ半あり。まさは
ぎ〳〵き大うりうるまこひつまくうる人
尾をつ〳〵儀まうびて媚をうるうとくて
他人いう〳〵と思てでもこうをよとづきこうる業を
まで前尾乃遠つるうる半もありと業の法乃
とりてこづる赤面一切あるひて法華経

引りて手わりあるべし此一合きざせそそれとつま
ぶのうあさえ[illegible]より三神地祇いもろ〳〵ものすなつ
ものすもはうえのきき手をとひ〳〵くこうて人はもじ
とんるべ〳〵ずまづ[illegible]そう人きは神明乃冥思ありう
冥とはんしとうむ[illegible]せ〳〵でありうさ赤ふる
ふうきあはんくねどくもうきかうりはうきあはし
こわべ〳〵ふゆう和也そのべ〳〵こあうさうり神明は
みくねべ〳〵神明はうく[illegible]ありうこまと冥
慰冥説とうの也

第十二人〳〵ひ大乃〳〵人は手
ひ〳〵うう人のうう八ん猿乃ふわ演とやすうう〳〵つよ
酒やありてとせ此酒了〳〵ひ〳〵わ手して并酒おし

〳〵こ此酒やのあ〳〵ん[illegible]とみてそのこ猿波演もえ
ふ〳〵と和〳〵酒道奥きまつう〳〵酒そべ〳〵とうう
うあさわまべ〳〵うの酒なうう酒もう〳〵うまべき
とひ〳〵べ葉よ桐葉道〳〵て此酒やは此酒と紙人も賞
人あり賞人あはまて此酒どうべ〳〵よ酒神やよ
はまく〳〵ふく〳〵八酸甘く〳〵ふく〳〵よく〳〵賞人のあ
はまよはまうてて人猿とうりかと破國〳〵うう
あ〳〵きわう〳〵あわべ〳〵ふ〳〵ふ〳〵やうあ此人〳〵
あ酒を葉〇とひうわべ〳〵うべ〳〵うべ〳〵わべあの
酒なう酒のべ〳〵まべ〳〵てみかまうわう手いあの酒や
う人喰猿がありて幸よ門べ〳〵よはべ〳〵ひうべう
おうて酒うひべもとうて神みうう〳〵喰ちし

らのつさゝすゆつゝありとのびよとひ合せてうき事
ゆり廻りてさう國のあるべいんぐせすあるかてて
ゆ業りとくさうのこ利とくも係うずうるのとく紙う
つさゝ考ゝ行ゝ〜ますゆ紙までもいつゆるるるやゝ其の
國乃侍町人百姓ゆ家ゆ上ゝ乃ゝのいみゆ
ちゝ〜よ他ゆ人逃ちゝすそのいゝれいつゆゝとゝで紙の
ゝゝのゝ〜ゆいひゝゝいさわゝゝよゆゝゝゝゝ人ゝひだ
かありて常ゝよゝゝ乃ゝ逃ゝゆゝつゝゝひゆゝゝゝゝく
出仕出功乃ゝ〜とゆゝよゆゝゝゝゝゝゝひゝゝすゝ
がゆゆゝゝゝゝゝゝ

ふれ〳〵ぶしを迎唱めあれ人のくるそぶりのあで
わるふれ申めうそつく猿をばあり猿とんあぶら
うかもあきうとつろうてやみいるきうとかく
申のすぐりあそうあり申あくきんかわろうよく
ものあるてそのかろうあわ〳〵ぬやうをもるもあ
るあり

第十三　ろくろいそぐろの事

ひろくろ人のろくろいそぐろ人の破風の絞り猿と三疋仕う
ぶろうひとりの猿いあるをとるつく耳とふぐひとつの
猿いあるをもつく貝とふぐひとりの猿いあるをとるつ
てはふろうそうろくろあわる人三人はまつく此門前をと
とをしぐひろくとろくいろあいそとろうれ人よ

ひろくろぐひあめあるぐ美ろうひよすろひろうぐろ人
うて美世ろうす美世ろうそて見ぐろゆろぶいそぐろ
とのくるうやとふぐひくろくろに感ぐ立ろうく
三人とも見ぐろきうぐぶいそぐろ乳とそてあり
わるタ美ろうぐひろいぐおりわくうの三人毒のま
びよ立うれるるれわふ乳をるの映響ろすにき
うえけるをきうぐぶろ乳よてそぶ人何よりくろいわて
そろ月も金ろ面よ美ろいろうすりやきく人あ猿
とろくさ物をうきあきけるあ母いそぐろ乳よてそろ
人ろうけるきろいにき方やぐろ乳むあくあるる
すれ浅毋そよくあぶぐちゆびをうてろいあ
ぐけるあよ見ろうの乳てそろ人のろいあるくい

何角とて何とやらいひくさくにろれをそなへつとろや弱
ふ信命一きを年一うをと他人のわやらをやしの一つを。何
さをり濃ぞくいそぐるものぐてしろ見ぐろの孫と
をのいをろ年をぞさくりをぐ世くをを年をこぐあ一を
こをそえれをそまづひすふをて世ろ乃人ぐのをとやも
ひをろ角はまづ他人のくをすをを一このむ伝見
やをいをそうをあざろうをわをれぐををのをみをう
ぬうをとを一このをて他人をわざろうをねをる年をび
をろあも怪をくぐを人のををををらんをハ銀
銭ををり知一をををやけをも一くををわづをき
数をよいあをすあんをを伝ををわをてをれみあざろ正確
をづをを数ぬのをうあくを他人の嘲をり

をのをんあをと申くをを別しみをづきくをひあろをすのを世ず
ををうををて他人のをを一このまんあを申てを別を
ぬ一をを何ぐをうをぐをうをを的失の月後を一得失の
ををを婦ぬぐをんやを年ををくこのをを一をのをみを法く
よの失あを年一天乃をくをををを人をを一をれ和ど
穀をををあをををををををを個ハ両ををくを
規ををを一年年をぐをを田畑をを一流ををあり
をを穴を一て米物をを一をを年ををををををををを
年一あををくをを一を豆黒和をあを一
評曰三申乃年一新乃糸栗田ぬをあり京乃人を
庚申乃日寄ををり伝ぐをこれハ偽教乃師の伝

ありそう根源は紙書うり言葉一猫猴のうちとつ
ゆきくく人の人屋猿のうちぐきはあとつくく
きまつり話の牧場の蕪葉とつ所ゆきといまつめ主
しうかあるのりは三申まつきて古ゆ
ひぐきうぐいぐ思ぐ所こと所うち地それ
それはとうて見ぐういぐ所きうこ所の氣とそ
ゆづりを所ゆ石集は言の行いてきう僧
の三人きそうぐわう教一本はあり。竹夫のきえ人と
きう所見て一人ぐいくくその夫うきあびとみつぐ
いくきそうの明よりのいうやわうとうこ時今一
人ぐうの面をあくくうのき中は言のりと破
つまつり祝は破う色じとてきついはあてさ

ぐ三人あぐ一同
引おとして書うきやびうを食は帰ぐ主て
のり行人ありくく鈴
米所ひうう所わうりのうぐに主りて主り
わの人此只今下の町うて地。その主下町うて伊をいうぐ
びは帰ぐうを脇をて。ぐうえゆびぐうこのてそれぐ
とうぐみくくうく。ぐうえゆびぐうこのてそれぐ
地いあうわくを一此主とあ中といえれくいく
脇をて。ぐみよありてきあ世ますひうぐ此ひ
いぐきぐうぐうあぐと思ものはうれ。すふそ
くうくうくうけ。やくいくぐとうの中を教ほじ
その中はうこ海あるの中とび見ぐうすいうぐうと

うーうすそうなひのぞをはとめうまいんの猿と
いまーめうづしりとまつくく第一とすぜ
なのまづあいうそでんりの西氏せむりう半うのぐせ
りんのうこわりりーれ泥昭略とつんい
世代遊哲えうてまれんべとつえわーがを偽とつんを
りくいいは通絵爲ういつみてうまりで肥うりて爲
病市りやとんを絵こうくいくいは泥昭略りは氏
ううまりで痩りそうりて遊相市りやとはえれて大
は脇とうそわがきうれおと猿と引えれうりうりやわが
分りあいはがーしてる他人の西氏うは半ーが物色
えわで性理書る人の吾氏見そいうのまづ吾とぶが
孫人の西氏見そいうをれまづあ氏見るりうんれどく

みて後うは差ゆんーとつう第書まつくく己と
ちそうまつくんるうーはゆうりのは逆ふ己と可しし
しそりつそはうそりゆうりをれうそくぶうんうう
わがが分りりうりのきぶうるんのうりう氏めぐ
りうそーはいうりうぶ坊くく猿分はーきゆ
あはうあがんん氏うりとわがうんわがうは
なーとはんう半うんうぶれうきわがうは
と勢せがまづ須くうづくく他人と章えん
んりくくえれうづくうりのんりう西氏りうそうて
噴がまりうづんは氏はけがりとうり
うがおうわりれと他人きうは他人のうのむゆよわが
きうはうう半んりう世りう氏ぬう辛とうは

若くさとこのこ醜をこうふりくくこよこのこ婦人
半わきまへをのむこそ人の婦いこそ
ゆるせん半ちわりやまりもちこのまづ分
乃恵とこしず人を評まちの半范中寛云その
おしてぶといまめていく人いこうこうかも
人体意ろこうあこうかり強羽ありこうこを
このまに体怨こうこい者しこ家ぐこうこぐ但海こう
人をせむこうのひ体めこく己こめ己を怨こうこを
めこく人を怨こぜこうりぐるこいかりこう
かりこうこも人のこうこ半こいこうこわぐいこめり
いこ吸こうこうこうこうかのあいこりぐここわぐ
人乃恵体いこくこはいこをめこくわぐ恵体いこ半め

せむぐこわこ分こあこうこわせこ人体あこうこれ
むぐここぐこここの恵ぐ分に雖恵かこ半いこ
いこくこすこ半ここ戸半ここつもてこめぜこ也

第十四人ま癖あこ中

むここここ人のこここハ人ここ体こもいあこ地あり待
わぐけこここずこわぐ白お昌こいこ唐羽乃祐人も
人ここ一癖あり祐癖章白よあここ恵ここ人祐国
の教人大僧正恵祐秀高乃こ物

人ふこりひここ乃こ

右こくせここ仏左僧こもこれこゆこ也ここ海地
分乃ここ也あこ体也但ぐこ恵左こここめここ体拾ここ
別あここ

評曰癖もくさにしたがひ人き事茶碗や馬乃癖ハ
あるとも牡鹿ハ左僧乃癖あり楽こゝ鶏の癖あり
主源ハ馬乃癖あり和嶋ハ猿乃癖ありと云ふ
癖もくさにしたがひ物ゆゑ癖ハ日本とても
さまざまにして今ハ世乃賢ハ下のくくまでも猿
乃くせゆゑ猿ハ欲ゆゑこれ世乃ゆゑ地獄ハ清潔
なるべき侍もしくさにしたがひたゞ物ゆゑ
第十六賢ハ賢人とも成めさるべき事
しかるに人のいつゝハ賢人とて賢成ものゝ賊ハ
賊とものくものゝしたがひたゞ物ゆゑ賊ハ
賢人とて常ハ人とゝ物つゝまはあるべ賢人とものく
しかるものゝ成ものゝ○成

なんまハ賢人とゝ成ものゝ一事の人と
なるべきにあらず
評曰物ゝ一概をゝ新ハ新とものく
ものゝしとゝいへども世ハ変れ乃ゝ世ハ人ハ
変乃飽と嫌ゝ世ゝ変ゝこれゝの新乃ゝ
てものゝ物ゝ賢成ものゝ賢ハ賢人とものく
ものゝ賢ゝ人ハ俗世乃人ゝ世ゝ賢人ゝ
俗世と云ゝ人ゝ世ゝ賢人ゝ世ゝ賢人ゝ
第十七茶碗と物ゝ
ものゝ茶碗ゝ人の茶碗ゝ人の茶碗ゝ
きゝ茶碗石ゝ物ゝ世ゝ地獄ハ
茶碗人ゝ成物ゝ眼ゝ衣新ゝ財ゝ情ゝ

うつとそて同業成業ろくひさゆうしのりて業堂
わろぎうらをりさわぐ囲碁うつすろすれ北張根
気根とりつく碁同ク藝能名人をさぬきうてよ
ゆんゆとや気根のうさぐ張根のきてぐてうき
ゆとまるのびのうめぐかい張ろ○気根ろのきまるぐ
ろくろんぐーろのきれり

百年七世の人業のうきぬ物をぬしゆ

ひーうろ人のつろハ世ろ北くぬうきめてあそぶゆ。ふ
うこ味線すぐ古将碁ろうつろ勝負ゆ女ろ京業
ろ湯太酒移書創る浄瑠璃歌舞妓亜に表意浄瑠
璃呪こめうーろ八名也ろ碁ハ新ろきこのうしぬ人ろて
ろうぐーよ独りわるゆ中とすきこのひろ

わろいハ屋ろのゆんとぬすきこのむ人みせよゆりぐい
うぬくーのすきこのみくー異ろう財産とろすやしあるひ
い高ぬ生ぐ分命ろのつもぬこ浦ーらずのうーき
うのやつうぬーきうの右ろのすきこのぬーりてうそぶ
ろうーとりつく儒学仏学ぬ本もうさこのうぐ祝世ぬ
悪陽生安楽ろうつうきのうとや

評曰囲碁将棋茶道の湯移書浄瑠璃ろあそびハ
ゆろ三味線又八名也ハ所ぐろ人ろくーあうーう
うろぐとうぐーよ分ぬうぐ中ーうろ本つぶて
このゆんゆハ行ろ血脈ーうぐ人ゆきうるぐや
えわぐゆんぬろのゆうくすきころうぐ行のぐゆて
同ろていうきゆーわぐゆぐ絵ろ儒仏ろ学問

[illegible]

第十八 表裏を別る人の変

むかしより人のこころハ今はせるとてあるに人ハ[illegible]
らひあきとりあるにあらんとてもはみるもの[illegible]
[illegible]
[illegible]
みるものつくはるく人はあるとをつくしひ[illegible]
[illegible]人なりみ[illegible]のいはいくとて[illegible]
[illegible]
人もあり

評曰[illegible]人[illegible]

[illegible]

癖わるくて面白がる人は遊廓より足しるつくしい
のらさい岩骨は云へ白こまとり礼付は云へ
卯後生うるさい也わるくて法人の国ゑうき
人とこゝろのはりぐらいの人はりみんぐて
ある人はなつくのきつくはこゝろも法人らしと
いそぐこゝろはり恋人ゑうつくろひ云へるゑ
うえ物つのものやぐらぐそうこゝろうえ也こゝろわる
ものゝりこゝろをこゝろちぐひてこゝぐつぐわぐこゝろ
きもりの也こゝぐうぐつぐりよ分金くこゝろきこゝわ
きこゝと思ひこゝぐゝん半はこゝ和ろ辛余也世ゑゆか
きこゝ人ゑつぐみこゝ実乃こゝ人もゑゑんや見こゝろきこゝ人ゑ
ぐつよ金てく世よ沢のこゝ也こゝ人こゝずや

第十九段の義あるこゝ也こゝ知
むつこゝろ人のこゝろい統領見こゝ人こゝ
領こゝろつくこゝ物ゑんこゝろ分ゑ親ゑ者
のゑ者見こゝ人こゝゑ主こゝ人右帝ゑ人
とゑゑこゝ人のゑこゝぐれこゝろこゝ
あこゝわこゝ。こゝ人北野天満ぐんどわゑ主きゑゑゆこゝ
人こゝゑこゝゑ主こゝのゑこゝゑ見こゝ天つくこゝ
領こゝこゝこゝひこゝ嫁ゑんゑ辛苦こゝ見こゝこゝぐこゝ
とゑのゑこゝぐこゝこゝゑこゝぐこゝのゑこゝくゑつこゝ形くこゝ
ゑこゝこゝこゝゑこゝゑこゝこゝゑこゝゑこゝ人こゝゑこゝゑこゝこゝて
鴻陽ゑこゝぐこゝ形ゑこゝぐこゝこゝゑこゝゑこゝゑこゝこゝゑこゝこゝ
ゑこゝ金張ゑこゝこゝゑこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

国ばそだちにくき所をとめぐみすいてわづ紺乃美人畳とい
ふわうたもの一甲斐のくに崩沢の屋ハ陸奥
ゆたかにくらしたもひろうやうこんやたんぬきの
分乃ふうふ釈ようちうるすん人ゆきたこうきうと
ふたりにたわんんやゆ世乃物語ふかりゆいふこと
つりでくつよ者めりえんとつてきんようにうぐく者ひの
絃どつるすうこりきれまづをの手づ釈とあぐむく
ようたうたもたこたつりでもたこ成ものわぐむくつきうぐと
海ようの者めりよわくゆ義和歌づ
ようたうくつ義和歌づ
ゆうづわうくうくとあうわくも世成くみつりてうすきぐ成
ふくの半海ようくにてうくうくうくの人のくうるる者き絃ぐうも

物成ありうきむ半とうりておうゆ人そのうりうぐふ
重にありうぐり生よううびゆうりうりきわぐ
たわうう完ありうこ中日絃乃成きうにうの人つふ
ゆうんあくで絃とうきとうけうこ弱うきうわぐ絃ても海
とうぐうこ人とうこうやの角ようりくく絃うう分とのつく
わうくあよ乃角とゆ絃づうもきこくのうま
里人ゆうとうこうはうこみきうくきうもうこけわ
りうう懐うこ人こうてわうこ乃情とうこうぐ人や新
更成こうりていうる新うくう新うくう世成うぐゆ
ゆうあり人とうて更をうすターいうくゆううとうも
物をりのうこわこ更成ゆうるうこ人いうこ人乃ゆうりあと
乃くぐも日氏の絃とうこうぐうるうこひのうこ人や

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ゆゑなるにはあらじ
中とくくまうとと書いづくしてはいかなる
ゆゑにかくのごとくは書とめしたるにやあらず
はいかの乃文章の方尾うのうず

第廿一たるの中

ひとりのうまはたる弘望とかすたる喫人わり周乃文を
とりすを至を渭演とくのくみ海ものうまを狩よおのくのくのんを
きうで白髪の子の翁乃世わり弱の餌をえりをずし
て奥につりあのうのうのぎ乃翁とかのぎしてのうん
たる人世ろ乃人世奥につるの間ふるつり弱よわのぎき
餌とうけてうそつきの海のうまと弱のつくこうてつの
稼の天世のうの人乃奥のうつるのすぎ形のつりどうた

きうでにけずうきうせ乃人海ぐりうにつりうさようしし
ふ文をみうきうにく巻くゆハ書みわりやとぞうんて書
みもうう利きくゆあうやとぞうんて書
分乃独りわんゆうさうう利を花世
高ぐん利を花乃分の独りわうゆ世とうんて
うりは帝のきゆをとうきうんずうぐ
酸乃紂とうすみとのうきうく夜世
ぐううんくう酸乃紂ハ西逢ろ乃人うて帝乃みどの
らず猫乃蔵うゆうのぞみをはうやしのうう海
世弱ハ乃男くのううとうのくの車の右まり
のせうくうりのひ仰西乃尼とあうぐううみうとと

ゆきかのみよみ傳說とかたり人間とかり
說とかく人間とかり○おさまりくらとかたり
ゆかの毛をとかとわりもくらしでうきくいかなる
こまわるものとかくまくせ

評曰そらぬ事文を渭渓は四せんとして史編と
いふかるまくかつをかるゆかの今日狩して的をうん物を
弊はかるず鹿はかるず兎をかるを師とかくて改す
とかまくかんし文をもかのちをわくりこの日のかる
ものみて渭渓ゆかくはすかるまくへ第よ
ゆかて奥はかりて奥はかりて文をもくへ四者し
て車よのせくかまくきくかりそ師とかのかるこせ
それはとりて奥ゆかるよ餌とさすして奥

をはかるかるゆ物ゆ
ひかるこうはかるこあ矢みて射ゆ時はかるこずこかるこずこかりこ
かるふかるかり
冷よ傳說ゆ事
るこふかるかる本はのひ傳說のかよ
してのかるぬるかりかるこびく四ゆかるかりくわで
るかるふかるかるびかるひかくかるかるかるかるかは樹と
せん食とかるかるかくかは怪梅とも七とのかるひかるか
それをは吳はかるかるずかるこをかるずかるこ
とかるきかるかりかるかるかるかるかるかるかるかるかるかる
かるとかるかるかるかるかるかるかるかるかるかは海桃也
姓はかるかるかるかるかるかるかるかるかるかるかるかるかる
をかるかるかるかるかるかるかるかるかるかるかるかるかるかる

[illegible]

[illegible]

[illegible]

をろく人のしうのうまでいつかうでもそこ〳〵むかうのうそ
もみぐちとそつひぐ〳〵みなりちかのろ人いやも
くを物をもはやうそんとぞ髭のとりまをかりて
中てそこかれあ所つひ〳〵せをうせいつく〳〵せんとす
ほの人のしうのうまでいつかうでもくをすをゆかりともあ
〳〵ちとそつひそ〳〵いつそんやちをうそこれ福をうまをひ
ていかうそげうてい法人そうあ所わぐそりそ〳〵ちとそ人
どもそう〳〵むつくそうつていひをゆす人のうさわを
む人くんそうあ福をいみあ百年〳〵わぐをうりどの中紙
をつすは海〳〵ろうきそんのうものをかぐ〳〵ち
紙をゆ〳〵ろ年のそうりゆそうひまをすは高ちりを
ゆく〳〵ぬ年〳〵ゆうそうそ〳〵ぬとく

いつそみぐをんてぷのそじ吳服をそうの人わをでいやが
つをゆつ〳〵ぐをそくいんぐんは海ぐ〳〵ひをのを重て
そ〳〵ひをみのをゆろをのくもみせんをうそ百屋用と
ひをうひか入をそうあくをぐそうほそわをがともを見そくんて
分のうをゆ所くんぐをいつかうぐのくいりてそやせ
どもそうあ所いつひをゆそんしそうの人一人のをくそうを
用をはゆぐうあ逢ろを紙をそ〳〵てつぐのりぐに
ク分今をそんつ〳〵ゆうぐれをの時をそうにすそう人
ひそうのの〳〵日比をそ〳〵きをぐちのをうをそんん
中代つをゆうをうぐみ〳〵ていとわる法をぐ〳〵ちう
き年月をたうそう紙福をうの乃をとゆそうの人そうそ紙
ゆのうそ〳〵くんぐをを紙をとゆぐ〳〵

評曰孔子の門人顔回は学問を
好み怒を遷さず過を再
びせざりき其人夭して
死せり迫づくの人あり
ものいふ事遅く思ふ事
速なり良医なり病人
に対して脈を診して
病の軽重を知り
薬を投じて
すくふ
倫理
すぐれたる
人なり
倫理
すぐれたる
人なり
倫理
すぐれたる
人なり

[illegible]

[illegible]

[illegible]

をとりて迯げゝはなちかけぶくろをさき肩へ
をわげわかげゝきくくいつゝあるやつまぶ福ゑたる
いとでうをへとわゝかんせうのうちゝいとをわげ
のものゝ同ゝきなやゝ
たゝうるゝ氣福をゝるゝ
るゝゝゝゝゝゝひげゝゝゝゝゝ
きゝゝゝゝゝゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

あるんとすれいまぐのりあめぐ西蓮れるんよ
とまわで茅ふつ〜めすて四文地人乃月光とふ角が
まーみ地ふりぐりれ〜〜〜集まわ〜〜さんうみ
まで久利ふめふけて実あ〜ぐみんて〜集ひ乃ば
まぐゆりに地ゆふ〜ふわ〜ぐあるまいひれさばく
ふつくふふ茅氏ひゆまつをひりこ地ぐ海ふまよ下鶴
乃ふ集よめ〜ぐりつ〜じて歩ふ〜〜ふれふふり
評曰わふるにひ弁ふづふぐあ乃半わるみ言故
人ふる茅ふてわがふ〜〜き醫師とふる人とふづき
ゆのすふてひくふ〜〜いふまで別魂ふすみんて
療治をふるよせ〜〜まふ何時も四周ふ〜〜ば作せふさ
まよよおく〜い死〜ふ海も世ふふ〜〜ふりはふふ

ゆふふ〜ぐるていやふ〜ゆ〜〜はいひ茅ないふつぐばんみ
いふ〜中風や傷をいは茅一服づふて茅海ふてれ
ふふの人みよふふの〜中風ふるを作〜ふ茅の
中風いのせよ療治を粉ふ海ふふとつふわてふふて
つふりいやひ〜〜れふいふ海りふあふふ中ふて
ふふ〜はふふ〜氏ゆを袖もふりふふ乃て新て
乃ふふひふにふりの海
第廿五乃ふ乃ふふ乃中
ひ〜ふふ人のふふいい佛を結けのふふとふいい一合不生氏
氏。三深乃り地永茅ふ師乃つ〜く語ふ〜て中ふりと
ふわで迫年一所ふなもふふ〜ぶふ人りのく歌めをわふ海
海茅ふ偽人黄偽偽をふふふふふふふのまぐ情意と

りつく空乃色相をくつの国のあり果のあり万年
みな空也とふこと是亟空乃大神奥伝ぶべしなり
いきしめ一えわで一念亟念ありとつぶく念仏也
て亟念とゝぐすあり一念と始めて念仏
うて一念亦也とゝぐこと也とぐすあり也
海とゝに竹寿と毒と也とり

評曰ゝゝ空仏ていつよふ心ふうは単空権大乗ゝ
八相空実大乗ゝ性空とつりてゝ景亟国果亟
とふゝ神奥の亟取空ゝてゝはゝゝ
こゝ仏魔説とゝぐゝ
説ゝ亟相亟念常寂ゝゝゝ
ゝく相ゝ亟すゝ半ゝ破ゝゝ

思ゝゝて念相ゝ亟乃ゝ仏ゝゝ
石法乃ゝゝ仏界ゝへて魔界ゝゝ
ゝて仏界ゝへとゝりこれ亟相乃念亟と魔界
とゝぐゝ仏ゝゝ法ゝ
亟しゝ列の念亟とゝゝこれ物乃食
毒仏ゝゝてゝゝ
みゝゝりて説ゝ亟念乃法ゝ
ぐゝゝ仏ゝ魔ゝ師ゝ別ゝ乃ゝ
ゝふこゝとゝゝく偏ゝゝ
知識ゝゝゝみゝぐ乃ゝ不ゝりて黙ゝて
対ゝゝと禅ゝ法ゝゝ
ゝりゝゝゝゝ手ゝゝ

ありいつまの事は今をもぜんや至相離念の位
はいかなるべきかとわれ〳〵宮方の人思へど
こは世間の浮世ぞかわぐ毒とおもうべし〳〵

弟共の事

むかしこれいかなる人とつかぐ中
かりて世民のがれ給はず人の世典の所典の通
まこときこえし国師の位と十八ヶ国の衆徒とつかえさ
給てはべりしかばせめて俗へ
やせのひまをいそぎ給へ人の縁をもとめてまかり
こえ人のもとへとわび給てこそ人数あらく人々よ
生れ生死のこと定まれんとおのおのはかなきの
いとまをもとめ給へんやと申しかば

人此事聞給ふ人とおりて一生他人の分代
こそ殺生分辞しかばせ給ふ人自中の
らんとすれば思ふ所をもとめ給ひてこそ仲のべ
べきあまたび一生殺生を滅却せんものと一
乃幸者さ人のこつよみ他人のこんくうまへとこそ
わづかなれば思ひ給ふ人乃世民ものこり給つるべ
分民中のいんとして仏辞をかのあれをもとむ
をもとめ給つしげく人をもとくいたり分
わ分いかあせく相無乃幸者さ人陸の一えて
知世乃をの一をいかあとあぐれもをくゆくの
あるべず一生をの中は海ぶわて落生乃つとあるの
ようぶあるのをわで冥乗乃こ〇のこりをて

[illegible]

評曰位を辞し分をしらぬ者のごとくんぐ安楽とりつめ
隠遁の愛ちゃうこゝかくれどゝ殷千未陳仲みがゝも
ぐれぐゝ特まが汚申は尾とひく蟇のごとく陶弘
景が金鏡は芝ゝ乃蓋をかこれんぐゝを写若
よとゝゝくゝゝ人を猟のごとくして高
地の高山乃深きことを九仞にして帳をつくる日

乃もきとゝ氏とつゝりを海棠山ゞ約乃ゆゝ山深く
とゞこゝりて寄して一生をくんとすがきを氏也
ゆゝゝは学啓期とゝ人庫乃毛衣と器を
常にして脚の跡とゝ氏あるみゝく琴氏のきて欲
とゝゝ氏とゝくんゝ氏牛のゝくゝ乃ゝゝゝゝ
辞也孔子こゝ氏ゝくゝ回ゝゝゝ先生のきみゝむ
とゝゝゝハ何申ぞやとゝ何学啓期ゝゝゝゝ
わゞ楽ゝ氏ゝゝゝ申ゝゝゝゝゝゝゝゝ乃楽ゝゝ
それ天万物と生ぞ氏中ゝゝゝぞ氏のゝゝゝゝ
ゆゝゝゝゝゝゝゝ人と生れゝく万物ゝゝぞれゝゝゝれ
一の楽ゝゝゝゝ男女乃別ゝゝゝゝハ一生の乃分と
私ゝゝゝ親ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

親人ゝ男と生れ二乃楽あり又人とあり男ゝ生
きくし稚乃中ゝ死しわくつづゝ乃乳のはじめ
くゝ乃ゝもあるにゝ命ゝでゝあく年九十ゝ
ゝでおぐくゝ乃ゝ三乃ゝ乃ゝまりまづきいた
とはゝゝ乃ゝ乃部のゝひやづて死ゝくさいゝの
ゝ後おりわゝ後のゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

りのあり勝軍流師ハ行けの意もありさてあて
ぶりぜ中傳乃いとくめんぐへ四ろぜ

第廿六　古賞切代酒業の事

むかしうる人代ことにいとそれくも人そして歌屋ちくあ
ありまてもあるとして歌乃ちまあるうハあてーに戸代
ろうろ4ろう町人ゆりり利ろいえんぐてとて養盛
乃ちてよ地ゆちれきろ呂一人ゆてりゆ子俄よ服ちふ
ちり大使つまちづくひちりきき業師ト子ちせてる
まても後乃業代といろうり業ぐちろ言よ歌ま
ぐちーありめつよ乃酒を親合ちくく一粒と代物二藤で
4ちが子の町人ろいとちひあて山業屋学くゆ
せぐやとひくちーゆのちゆ人ゆゆ一粒と一文でよおんきや

まてとはくをあくあく猫ぐりろひそれそまひぶろくハ
二粒とろみよれちーきやまとえろ絶ろひをなよれふし
孫ハつろひ用ありちくぐてこ粒ろみよ海ちてろうぬ
うまくくていろうぎろろうり山業屋一ろにこ粒あろ
ゆとものくろとせられいぶぐろうくくろうへき
ちて酒4ちふ一日4七八十ろむつろひあき服中
むかくゆろ

第廿七　ろう人ゆるの事

ちーろう人乃ろいちまろ乃ゆるくろハんてろゆりて立
えろ乃ゆるうちぐえろハやうゆとそーるむぐーゆえ
よゆぶぐてとせゆ和ーず鏡ありぐで
評白はまくーまして業に業ろよかんとろつへりぶまを

じたいつねのごとくなれども
四日一日なりとも人あるべからずとて
きづかひ迷惑表裡倹約怪談
もあくみそらに禍乃種とれるゆゑ
りざかやうとはつはいくるゆゑ
ぶちに卒倒のわやはしられしとや

第廿八　落る分るる歳末

ひとりさうにのうろいは対い分乃ちゆ迷惑するゆゑ
きてでも落るは分乃ちゆゑ歳末ありまえ乃いえ
不動つあてはなること一こさ人の吳服釈のやうあん
欲とそれるて矣治年篇ひかわもぐまぐへしこれば
祝ひとうりはとあくれ祝をき歳すとせめぐら

第廿九　乱舞とぬこうる年

ひとりさうにのうろいはうるゆゑ
いでも今は侍ハうゆゑで
うわぐまぐおろひうるぐうる
うつけぐ歳七　乱舞をとゆ
ひくもぐひうるぐまれうて
ゆのり一とせうるおうるこ
うる乱乃伝伯みるうひ
うるうるるるてうる数ぐみうるひの中文ゆる
財乃ゆりてうるども笑わうるひうるひ　祝世今云日吉
うまひ故ぐうるひうるひうるひうるうる
祥ゆうるきぐりの出幡ぐうるひうるひうるぐ

一絵に画はあるりのあり麒麟と鳳凰と龜と龍
とは是乃和とそこ斗こゝハこゝ下こゝ平一至極の窮
乃陽地とこゝ斗ハ画はなしなどゝ逃るゝも
也画ありてこゝ斗ハ蛇蚓すでゝ乃ゝ画なし
こゝ斗ハこゝ斗ハ万物乃ものゝ生れてもゝ
ゝ斗生ゝ斗ゝ斗ゝ一藝一能もゝ人ハ物とゝ
えとすべきやこゝ斗ゝ絵とハ
ゝと鞠鳥了鳥ゝ仕方鷹連歌吹物ゝ盤
みせ藝とゝ
和歌ゝ言曲ゝ数寄桐樸ゝとゝ智こゝ斗ゝ七藝
こゝ斗ゝ人ゝ人ゝ絵七藝みゝゝゝゝゝゝゝ人ゝ
ゝ斗ゝゝゝゝ人ゝ絵七藝絵ゝ

いゝゝゝゝゝゝゝ

かりの人馬をわかつ屋列櫛田伊賀五郎兵衛尉為行の城と
うらうつて狩りて破滅しまふ家屋のけふ所
をき死をまつく落をとる城郭の人用よりあてるやあ
とつぐ高屋乃守る城郭ようてごりふとうとも
運命つるものぐ伊乃者の人はくくく素代感
陽文海をよりー陣列ちなの城伊乃者わるやや
一国とりちなるハ城郭乃形く金言国ある七
たくくまくく城をかんとくく運をうつ
まくぐ但一国をもわるくくの伊ハ城郭
乃月をうつ七それちなハ三部と海
あるそれけをとて軍をたぐめ待乃ぐんと
はくくわるくかるーくくまくくく

[illegible]

[illegible]

[illegible]

あるぢんもつい也

評曰酒をあまくやわらかく飲ものの腸中よりあるき
吳羽ものも酒をのまやせびして呂香汁をくせすれば
一物その喉よりあつ形い肝ろくろくたくく針の孔迄
あの穴いろ〳〵とつ和をしぶとわて湯ハ一滴とも
ぬのようなるやうなる沖をのこけるるハ強て蝶の
毛と飲て胃ろ入毒ようつまれて出とあり
てしやうしいとも也み高郎出として人のあつふ
りと病人ハ勝手ハ〳〵也答を以病わりわるハ
病ひりと面〳〵癒治とあり金ぶさう人辛苦とひ
らゝてゝゝゝ

南都人批判いろいろ申しかく分命ぜられしかば
後悔さきに立つ川を流さんとしたりしかども
分命ぜられしかくの如く生人申しに後悔わるせしとつくせ
をわるうんんの法師つしいづし
評曰人の世に生むを生なれば生るより耳にうつる恒
よ逢目わりをわるべき所なるに綱うてそうぐ
わりをそぐ奥に綱づりをもつくわるべせ云成し童
坊をもそうぜ人のいたづらぐるぶ所をえれば
わづらはゆうて人よれ照をとる生照をそそて胸と
りゆす中ゆりほを流るいうさ流さとりて足
ゆよりとすぜ云るいさしを物の数ぶるめ人びるよ
そ宮ゆりそれ古間の竜ぬがミりか

世ろ中を流りそべて今ぞ思ひ知る戸に浪風りかし
弟世ミんぶてを嘗ぶる中
ひ一ろ人の一ろ行とせれろん人にはかつ敬れ仏を儒
乃ゆんづもべだくくく邪ろ人せともかいん中ゆり
ぐぜいりんやか敬が西氏人とやゆとつで衣数悔来い花を
ぐり金をとりびかりりとつくん中ろくはて
ひくくろ鄭人ゆくろよ蠱をくくとと唐人楊ゆ死
死絶わび綱の中世南京経ひ来ゆどいとわくくし
き妻人ありくん中くくゆいひくくいくくい一意
ろゆくれそくくを伝ゆわくくて見ゆくうぜ
評曰世ろ中ろくひくくひくくひ人人中ひきわぐ
をゆきか代利わきい見ゆ良くてちづき後来の

[illegible]

[illegible]

[illegible]

むかしある人の家に侍の妻ありけるが
夫みまかりてのち後家になりて
ひとりぐらしをしけるが
ある人ゆえ殺されて
わかきときとびうちぐしてこの
ゆかたかたびらの
ずうずうしくみめ
らくらくとしていつも
雪人をたらいのつらにぬりて
ゆうべやどにやうべうぞ
こころ別して実と
ゆかしがりてこれ

つくりもさわぐ人の
亜西のいもをつくりて
老わすれ役人の
評曰人の
ども後老わすれ役人
やしきのみ
人をぬきとりの
つくりもとうとうの
ゆえ
ものぐさ
ゆえ
いつ
ものぐさ
ものぐさ
とうとうの
とうとうの

[illegible]

[illegible]

[illegible]

わるくち者は百姓町人えてさ食まるく見侍るも
同家也号侍とてその仁義ろうとちゆとその別を撰
ぶせしとの自分の口論をうして撰投角尾とく
ろ仁義よいてうん人人は無くずと割を無きあり也
評曰ちゆとうは不ゆわるくも仁義のうとくく
ろきまわで右人くもき侍のみりちのうてのう
ずをのづくはうおりうも也ろ角ろ中いあくみの書
ろうせり好ようのづず
角形七様へあてて他へは吳度とろ中
ひくうる人へひうろいはくくとうき世ろ人くくとうろ4うき
人のうろ仁をくゆくとうてとうて地知づくうとうぜうろ那吳
とうろりくくは吳度をすろうう何よいうくうきうよろ功とうの也

ろ無ひ者ひりを世ようきろ八角ろうろ4吳新とあるく性と
ひけようろ無いはくもくしみ地ものくしひろ馬を仁ぜうろ世方
をあろうせ扶ろくくうぜ見八牙とうもゆくれ牙八見イ
ろうくうぜ女ろ男をうぜくへ老へ八ろきくあるくわきへ八ろ
くろ体くやくひ前ろろみてうぜくうぜうひゆくれて
ろうくくろうぜ地ろて撰ぜうくろ仁とうぜ吳へうく地知
と撰ずきうぜへうろ力うてうぜ吳へうく地知
体あろうくぜ吳度ようくうくうくうて法へとうゆくます下ようて上
くくていんぜんと海ようり儒ろうろとゆうろのひて仁
けくゆうろうぜうくうぜうくくゆくうぜうくくゆくうくくろ
ろうろへきへけりくも地ろうてきろうぜのろの口と

相違しいろの多くて始末のつきんをついそうすの
ゆくさきよりも他人のかりを不種呂他人の失度をつひ
きうをもんよりもはやび稼方よりはやんして物をくるう
評口をいづくにをやこのつくんよをゆうん聖賢の
教のりをを通とをりてをゆうて通わづ分ス
行をのりびとつてをも赤面恥入るもをおぼ
をくんごうをとをにをくずしてゆをうず懸てくる
ありをとをもをくごうとは面倒のをの不用のし
讓りををすりは讓りを新也吾人のををはをいきさ
をくんの影也ひをのの信わをしもくをのを世ををくん
人界は育で法法はりは性の高をべるずをくう
をくんてをも信をの高と歌をのうをさをくを

長うて生死乃海をうをみんをの者性を
せよをく法蓮を癒治せをくを醫師を迎乃癒をる
此風呂屋の主人也此のをくわをのけをづひせま
ゆりり侍乃ん年人乃ををつりりはゆをずを
命世八時ををのをを年
ひをうをんををれ死人の完をををゆく百年ゆを
ををづの行ををををををををををををををををを
此時也ををる法秋を後をををををををををををを
祈ずひををを死はををを海ずみををををををを
をををひわずんををを果をを也
ををを法ををあをををををををををををををを
ををををををををををををををををををををを

[illegible]

評曰世を治めて世を[illegible]
[illegible]
[illegible]
清精殿の[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

・第廿九　小夫乃要を感ずる事

ひとりの人なぐさみの独りをかたのそろ細義乃命をとりて
姫をうばひ奪ひ[illegible]ひのあり[illegible]命代
申し指ひとりをなぐさむ[illegible]
[illegible]
[illegible]

とそ[illegible]と合戦と初め[illegible]
国家所[illegible]
[illegible]敵乃方[illegible]
とは方[illegible]
[illegible]方便[illegible]
[illegible]人の[illegible]
国家[illegible]
中[illegible]
[illegible]敵[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

評曰[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]〇ばかりなる不人はまゆをうてうまび
乃張おとりてたゝ作ゞ〻まゐらせとふ
み借をはたすゆゑ[illegible]ゝ[illegible]
ども只今ゝ[illegible]ずゝ[illegible]
中ゝ也そゝ[illegible]
と作ゝ[illegible]
乃賣[illegible]
あゝ今の[illegible]
[illegible]
と[illegible]
[illegible]
[illegible]

くくたちまちこゝに項羽のとう帝をうつ侍ゝのこゝを
張良が策をうて范増が計をもつて
又晉侯は魏國とうこんこゝに虞とゞ國はこの
あわゞ乃氏ひきて俎のうへとして垂涎のおもを虞
はをむくゝとしてくゝ也魏國とうこゝ
のこゝ虞國ゝもうこゝ計策のキ和くみ
あかゝこゝをありこゝくこゝまをゞゞこゝ
いこゝもわ身ゞゞ

命字ハ生ゝる孔老おしへ物ゝ也キ

ひゝこゝくゝ人乃こゝくゝはゞゞまゝのゞ所ゝこゝ長人やゝひゝこゝもん
こゝ國のわこゝゝは屋こゝくゝはゞゝわこゝくゝ也老ハ荒乃こゝ
わゞ乃ハ南蛮流とゝ物也こゝのこゝわゝを先屋とゝふ物を

国地乃こゝゝとゝ物をゝ人のゝ生ゝ殺ゝ市民ゝ主長
命ゝ分命ゝとゝ人のゝ分命ゝこゝくゝ人ゝ国乃ゝ人ゝ
ゝを正ゝをゝれゝゝゝこゝくゝ人ゝ乃ゝ
乃命ゝとゝかゝこゝ殺害ゝ主ゝ
ゝゝ人ゝ国ゝ仁義ゝ國ゝ運命ゝ
キ如ゝこゝくゝ人ゝ生ゝ乃ゝ
ゝゝ如ゝゝ人ゝ荒ゝ乃ゝ
ゝゝ人ゝ毒ゝ乃ゝ宮ゝ
用ゝゝゝこゝゝ人ゝ
ゝゝゝゝ人ゝ
ハ荒乃ゝ人ゝ乃ゝ食物の

きくらんハ、ゝ様ゆとゝ〜ひとゝゝゆひて食物ちやと四
つゞ様ゞ変やゝゝゝ〜ゝゝ〜ゝゝ〜ゝゝ〜ゝゝ〜ゝゝ〜ゝゝ〜ゝゝ〜
ちゆゝゝゝゆのゝゝ安飛陽ゝゝゝゝ神ゝゝゝゝ

評曰人乃主君として或ハ一国一郡とも号つかれ
奉りしの四方の海とに世乃人うとびれて異張も
めでたき治平ぞ
ますとそも薩摩の国わつ人さ民屋ようとつ
半乃民ちさ人義兵も海の乃侍ぞ乃と楽と
ゆかしず四方えの乃ちと
られて命とくに民軍のもうき侍ハ敵をうつび
うつてそ半乃冥加と旦ゆづ也ぬてて帝大唐咲
口場ものくに民きうれ
乃手也えんしゆうべうき侍ハ扶旦ようう楽ハ海く
芝谷地ゆり乃日高ゆうと竜ようと半ハ城郭武蔵
の方手をとりてうつの色

鼠ハ人ぬ乃毒とゆう乃半わつ云鍋ようつ民ぐのれ
ものつてそ晴ゆき不ようとうれてみる。人そのあと向
ども也ゆ乃りなすぬを食もわぐくようつとむけて
ようつ人うわぐくうりぬ日ようくうて乃半ようう
半ぬ人ず人ぬ日乃ようれちぐひ日のうこ乃ようて乃て
毒乃を乃ーうわぐども乃ーぬくくせんさくして
うわぐ祢ようて乃ようて乃國地をうくひてうりうくみどし
女ようべども祢乃國地をあくうくひて昇わうう
ようて祢ようて陸漫師と祢ようて乃ぬくく稜とつて也
ども乃ーうの鼠師乃ようう中ようて乃ちんずる小
鼠乃廻とうくひて人毒ぬあうりうて異茶毒と
いふ毒乃猫乃ようへうわぐ猫乃ようて廻と乃ーぬす

その夜茅萱と姫そのの病人はのさせうそれ
ぞ急ぐは舎りは竜乃くしひさーうちあるいは毒
ばりくめるてをくぜはのの中系の好まわり

鼻平二丸銘と称べきくるのす

ひーさる人のつほいうりのみえばくぜわそそくー人
ようそそめをわく弛つくべくすそそ病ハ足ろくりの
きうらはいろりぜ分命とそそくーみとめうりた他人そ
そそそきぜ足をんべるぜ元べくーすちていうやくふ
ちくくみとめうりをんどくわざをくまんも縫のーみ
ちちのくく人のくるうる所移てみぐうりる足ぐづー
うりりぐにうきぜのはうをつけ敵義人へと足をー味力
ちりをつきそそ乗入くうりるーとうりくわぐ傷物人へ

そやうふわくうそれうりる人月人せで伝ようあん呂人ようー
そそようけつを分命をうそれ三三三ようひつくくり
ーうる人いくやうはんぐけぞハ何何も弓尾まわつ中
あるをぐきとうり

詳四ハ毒美ように犯ようりこりるを呂ー人
ぐめもを内筆そわで明清はとびへぐーー澤くこ
人ゆ人くーを毒をまに接きーけてあんはは呂ー人うを入
そそんは奬略それいくくそそくくもそそくずそくー人う
けとくを可ハ銘の銘人くとうくー物也分命とをん
ゆくうはは仕美乃死と血をはくー死とあるぜくハ血美の
死ありくそれて銘人のあるる不也ちく人乾卵乃心
数ぐ列者と者ちちはは京康ゲ奥人へて一向とうろ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

一　きりぎりすやなくなくこゑ〳〵萩乃ゝ毎月とうきぐ
高砂　後わ見し但し萩乃ゝまとうきうゝまりて月
とうきうゝうゝや